

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 らいおん 組	6 月 13 日 (金)	川島 有紗

● 実施計画

活動テーマ	
サイエンス ～光～ 光と影の探検ごっこ	
活動テーマに関する 日頃の興味関心について	
前週の影あそびが広がり、園内外でできる影を発見し、影でできる様々な遊びを楽しんでいる。	
活動スケジュール	環境設定 ・ 準備物
時間	内容
11:00	<p>・「影あそびはどんな遊び?」「影はどんな形をしている?」「太陽が雲に隠れた時には影は見た事ある?」等問い掛ける。</p> <p>・実際に行った経験から「影ができるためには何が必要なのか?」「影ができるのは外だけなのか?」と問い掛ける。</p> <p>・光について子どもが気がついた時に、太陽とライトから光が直進する図解を出し、光と影の関係性について「どんな時に光や影がある?」「光が出るもの、影ができるものって何?」等と問いかける。</p>
11:10	<p>・「電気を消したら光は無くなる?」「暗くなったら影はどうなる?」と保育室を暗くしたら影はどうなるのか調べてみようかと提案する。</p> <p>・「影は見えるかな?」等と問いかけ、光がないと影はどうなるかを話し合い一緒に確認していく。</p> <p>・電気をつけ、「暗くなったら影はどうなったか?」「何色に見えた?」と気づいた事を話せる場を設け「どうして影が見えなくなったのか?」と問い掛ける。</p>
11:20	<p>・懐中電灯の使い方を伝えて、グループ事に約束や順番を決めて話し合いルールを決める。</p> <p>その後保育室を暗くして、懐中電灯を使って照らしながら探検をする。「さっき影が無くなった場所に光を当てるとどうなったかな?」「影はどうなっているのか?」「光はどうなっているかな?」と問い掛け、光と影の様子を観察できるようにする。</p>
	<p>【環境設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・懐中電灯について、明るさの確認と、子どもの手に持った際に危険な箇所がないか確認しておく。 ・暗い環境が苦手な児がいないか等を把握しておく。 ・暗転した保育室で災害が発生した場合でも、瞬時に対応ができるよう、避難経路の確保と備品の確認をしておく。 <p>【準備物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・懐中電灯 ・ホワイトボード、マーカー <p>■参考資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・太陽とライトから光が直進する図解 ・光の反射の図解 <p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・探究活動に使用する用具（懐中電灯、鏡など）使用方法をあらかじめ設定しておく。 ・わかりやすいイラストや写真を選定する。

11:25	<p>・光の反射の図解を見せ、光が何かに当たって跳ね返ることを「反射」というと説明する。</p> <p>・次回、調べてみよう(実験してみよう)と提案し、探究の継続と次回への意欲がわくような声掛けをする。</p>
-------	---

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>・「影」について様々な事を考えている際に子どもたちの方から「電気を消してみたい」との声が上がった。その後懐中電灯を持って電気を消す際に、友達には向けない事やルールを守って使うように声を掛けてから実践をするようにした。</p> <p>・光の反射の図解を見せ、光が何かに当たって跳ね返ることを「反射」というと説明すると知らない児多く学ぶ児が多かった。</p>	<p>【子どもの姿・声】</p> <p>・「部屋が暗いと影は出来ないね」「影は明るくすると出てくるんだね」「影は遠くにいくほどだんだん大きくなっていくんだね」等と気がつき、友達と会話をして楽しい雰囲気の中で発言する様子が見られた。</p> <p>【保育者との関わり】</p> <p>・子どもたちの興味や関心が広がるように発言等を聞きながら声を掛けるようにした。</p>

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<p>・普段から「影」について興味を持っていたので取り組みやすかった。また「影」一つでも友達の発言を聞いて様々なイメージが広がり興味を持ちながら取り組んでいたため、次回に繋げていきたい。</p>	<p>・5歳保育室内は特に良く日が入るので「光」や「影」に気が付ける環境だと思います。・子どもたちの言葉を逃さず拾い上げて興味深い「探究」に繋がると嬉しいです。</p>

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 らいおん 組	9 月 10 日 (水)	川島 有紗

● 実施計画

活動テーマ	
たべもの ~食べる~ なぜ食べるの？	
活動テーマに関する 日頃の興味関心について	
日常生活の中で、「どうしてお腹がすくの?」「お菓子だけじゃだめなの?」といった自分の体験に基づく疑問を持ち、食べることと体の変化とのつながりに関心を示している。生活経験を通して、「なぜ食べるのか」という根源的な問いに自然に触れ、探究心を深める芽を見せている。	
活動スケジュール	環境設定 ・ 準備物
時間	内容
10:50~11:00	・絵本【おすしやさんにいらっしやい】【いただきます】
11:00	・秋の食べ物について友だちと考える。その後イラストもみてイメージが広がる。
11:05~11:30	・秋の食べ物について友だちと考える。画用紙にクレヨンで絵を描いてハサミで切る。新聞紙とアルミホイルでサンマを作る。
	【環境設定】 ・安全に探究できるように広い空間を設けて設定する。 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 ・正解を求めるのではなく、予想し考える態度を大切にする。
	【活動使用教材】 ・食べることに関する絵本 ・画用紙 ・糊 ・新聞紙 ・アルミホイル
	【事前準備】 ・秋のイラスト(子どもがイメージしやすい為)

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
・絵本を見る・聞く。 ・秋のイラストについて考える。イラストをみて他も学ぶ。 ・画用紙に絵を描く。アルミホイルでサンマを作る。 ・完成後、友達作品をみる。その後、友達作品をみて何のイラストを描いていたのか、どう思ったのか一人ずつ発表する。	【子どもの姿・声】 ・仰向けに寝て、「ここ(お腹)が動いてる」「心臓がトクトクしてる」と体に注目していた。 ・「食べないと力が出ないから走れないよね」「骨が大きくなるのかな」と体と食べ物を結びつける発言があった。 【保育者との関わり】 ・子どもの発言を「そう思ったんだね」と受け止めたうえで、「どうしてそう思うの?」「他にはどんな食べ物があるかな?」と問いを返し、子どもの思考を深めることを意識した。 ・活動を生活と結びつけ、「給食の後の体はどう?」「おやつのはどう?」と問いかけることで、日常の体験に戻して考えられるように支援した。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
・最初に自分たちで秋のイラストを考えるように声を掛けてから、その後様子を見てイラストを渡した。また、友達とのやり取りの中で「〇〇もかな?」「〇〇は違うよね?」等とイメージを広げながら考えていたので、保育者も必要に応じて声を掛けるようにした。 グループ事に一つの作品を作る事で、友達作品と何が違うのか?等保護者と一緒に考える児もいた。今後も季節ならではの作品を作って掲示をしていく。	・出来上がった作品を見てから活動の様子を聞いたのですが、形になるまでの子どもの会話や気付きが面白いと思いました。 ・グループの友達の意見を聞く事も出来、良い活動が出来ましたね。

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 らいおん 組	12 月 16 日 (火)	川島 有紗

● 実施計画

活動テーマ

アート～この絵どんな絵？～
好きな絵を見つけてみよう！

活動テーマに関する 日頃の興味関心について

製作やお絵描きを楽しみ、描いたものを友だちや先生に見せて「これが好き」「これは〇〇みたい」と話している。絵本やポスターをながめながら、好きな絵や印象に残る場面を選ぶ姿がある。

活動スケジュール

環境設定 ・ 準備物

時間	内容	環境設定 ・ 準備物
11:00～11:10	・様々な名画をスライドや図鑑で見興味を持つ。その後、「どこで見たことがあるのか？」「気に入った作品はどれなのか？」1人ずつ聞いてみる。	【環境設定】 ・絵画の画像や図鑑が見やすいように環境を整える。 ・子どもたちが自由に調べることができるように資料を十分に準備する。 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 ・正解を求めるのではなく、予想し考える態度を重視する。
11:15～11:20	・絵画の中から興味のある「アクリル画」「洋画」「水彩画」等絵画に合わせて画用紙に文字を描く。	【準備物】 小学館の図鑑NEOアート 図解 はじめての絵画 (小学館の図鑑NEOアート) ・ホワイトボード ・マグネットやテープ(資料を貼るため)
11:20～11:30	・絵画を元に塗り絵。【向日葵】	【事前準備】 添付資料の内容を読み込む。 資料を人数分プリントし、冊子を作る。 図鑑の該当箇所を用意し、作品を調べる材料にする。

実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
・子どもたちは、様々な絵画に興味をもち好きな作品を見つけて興味を持っていた。最初は「見たことがある」程度の認識だったが、調べるうちに技法や画家に関心を持ち、「この絵はどうやって描かれたの？」とさらに深く考える児もいた。友達と話し合いながら、自分の視点を整理し、発表することで、多様な感じ方があることを理解している様子だった。	【子どもの姿・声】 ・「この絵、どこかで見たことある、知っている」と興味を示す姿がある。 ・「なんでこんな色の使い方をしているんだろう？」と作品の特徴に気づく発言がある。 【保育者との関わり】 ・「どの絵が気になる？」と問いかけ、興味の幅を広げる。 ・「どんなところが好き？」と具体的に考えられるようにする。 ・「同じ絵でも、見方によって違う感じ方があるね」と多様な視点に気づくことができるようにする。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
・最初は内容が難しいと感じていたが、実際に子どもたちに絵画やイラストをみせることにより興味を示していたので良かった。 次回は、さらに作品の背景や画家の意図に触れながら、より深い視点で絵を鑑賞できるような活動を考えたい。	・「みたことある。」から興味を広げられるような援助ができ、良い活動になりましたね。これを機に他の作品を見たり、自分が描くことの参考にもなると良いでしょう。 ・友達と話しながら互いに聞く、話すことも大切にしたいですね。